

シラバス

科目名	舞台技術		担当者名	渡邊 政美				
学科	コンサート・イベント科 イベント企画コース		授業方法	講義				
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選		授業時間数 72時間			
授業目的	仕事として、現場に出た際困らないように基本的な知識をなるべく多く学生に伝えていく							
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	仕事として現場に出る際、舞台技術で学んだ知識はすぐに役立つと考える。専門用語や特殊な場所の名前等ある中で戸惑いを少しでもなくし、実践につなげられる人材になるよう、様々な知識、経験上の話などを伝えていく。							
授業概要	舞台(イベント)に関わる仕事をするにあたり、大切で最も基本的な「挨拶をきちんとする」をはじめ、舞台用語、場所・機構の名前、それぞれの役割を理解する。舞台の世界では未だ使われている「尺貫法」を理解する。							
授業 計 画 表	授業内容		授業内容					
	1 オリエンテーション	19	試験					
	2 オリエンテーション	20	試験の講評					
	3 オリエンテーション	21	舞台用語(シーリング、フロントなど)					
	4 講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授業に関して	22	ホール管理について					
	5 舞台用語、場所の名前、それぞれの役割、各注意点をプロ音響データーブックを参考にし、PowerPointを使い伝える	23	山台の組み方(復習、基礎編1)					
	6 同上(中割幕、大黒幕など)	24	山台の組み方(基礎編2)					
	7 同上(暗転幕、バトンなど)	25	山台の組み方(基礎編3)					
	8 同上(舞台用語に関して)	26	山台の組み方(応用編 迫)					
	9 同上(アッパー・ホリゾントライトなどと、平面図に関して)	27	山台の組み方(応用編 2枚重ね)					
	10 同上(綱元、操作盤など)	28	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)					
	11 同上(迫、すのこなど)	29	山台の組み方(応用編 変形2)					
	12 同上(反響板、オーケストラピットなど)	30	舞台の禁止行為に関して					
	13 同上(所作台、本花道など)	31	試験対策					
	14 同上(山台)、尺貫法、平台、箱馬に関して	32	試験					
	15 高さのない山台の組み方	33	試験の講評					
	16 高さのない山台の組み方	34	まとめ					
	17 舞台用語(定式幕、高座台など)	35	まとめ					
	18 試験対策	36	まとめ					
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付				
	学習態度・出席率	50%						
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点 以下は不合格				
	合計	100%						
P/R/A/G割合	P«課題解決型学習»50% R«実働実践型学習»20% A«主体的参加型学習»20% G«海外体感型学習»10%							
講師プロフィール	東京工学院音響芸術科卒業の後、株式会社岡田舞台にて、ホール管理及び技術者として勤続28年に至る。勤務した会館は5館目となり、ホールチーフとして10年以上の経験を持つ。							

シラバス

科目名	音響技術Ⅰ	担当者名	櫛田 博			
学科	コンサート・イベント科 イベント企画コース	授業方法	講義			
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 72時間		
授業目的	技術的な基礎知識を身につける。／論理的な思考力を身につける。					
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	ハードウェア: アナログ電気音響の基礎から、音響機材の種類と使用目的を理解する。□ ソフトウェア: 現場においてのスタッフとしての責任や、音響マンとしての役割を理解する。					
授業概要	前半は、音響の仕事の内容や職種・ポジションなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎を学ぶ。□ 後半は、マイクロフォンからスピーカーまでの各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ また、音の性質や楽器の発音の仕組みを説明する。					
授業 計 画 表	授業内容		授業内容			
	1 オリエンテーション	19	前期末試験の解説			
	2 オリエンテーション	20	周辺機器 ①(イコライザー／空間系エフェクター)			
	3 オリエンテーション	21	周辺機器 ②(ダイナミックス系エフェクター／録再機器)			
	4 PAの世界	22	アウトプット ①(ユニット／ホーン／エンクロージャ)			
	5 音響に必要な算数・数学	23	アウトプット ②(プロセッサー／パワーアンプ)			
	6 舞台・音響の略号と仕込図	24	アウトプット ③(指向性／スピーカーシステム)			
	7 電気の基礎(電圧／電流／電力)	25	ルームアコースティック(音の吸収・反射・透過／残響)			
	8 電子の基礎 ①(抵抗／コンデンサ／コイル)	26	音の発音とマイキング			
	9 電子の基礎 ②(dB／インピーダンス)	27	音響備品／ケーブル／工具			
	10 電子の基礎 ③(アナログオーディオ伝送)	28	デジタルの基礎 ①(デジタルオーディオ)			
	11 音の性質	29	デジタルの基礎 ②(PCM音源と圧縮音源)			
	12 聴覚・音響心理効果	30	音響の仕事の進め方			
	13 音響システムの概要	31	後期まとめ			
	14 インプット ①(マイクロフォン)	32	リクエスト講義			
	15 インプット ②(ピックアップ／DI)	33	学年末試験の解説			
	16 ミキサー ①(インプットモジュール)	34	まとめ			
	17 ミキサー ②(アウトプットモジュール)	35	まとめ			
	18 前期まとめ	36	まとめ			
成績割合	テスト	90%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
	学習態度・出席率	10%				
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%					
講師プロフィール	音響技術者として30年以上のキャリアを持ち、現在も音楽ツアーや各種イベントにてPAオペレーターとして活躍する。					

シラバス

科目名	ステージ・テクニック	担当者名	長谷川 浩司、村野 浩一、中井川 孝之、月岡 靖智、岩元 真樹		
学科	コンサート・イベント科 イベント企画コース	授業方法	講義		
認定単位 開講学年	3単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 54時間	
授業目的	イベント業界で働く上での業務の理解、スケジュール・予算管理などの重要性を学び社会人としての成長を目的とする				
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	イベントで使用する各種資料、アイテムなどの理解を深め、実習、実技などで具体的に授業目標を定める				
授業概要	現場で必要なスキルを舞台監督・制作・運営・大道具・楽器・特殊効果と分けて深く座学や実技において説明を行っていく				
授業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1 オリエンテーション	19	「譜割り」の作成		
	2 オリエンテーション	20	実際の楽器を使ってのローディー実践①		
	3 オリエンテーション	21	実際の楽器を使ってのローディー実践②		
	4 ジャンル別に求められるスタッフの違い	22	シーケンスを使った同期演奏の実践		
	5 イベントに関わる全セクションの業務内容	23	学祭に向けての現場テクニックの復習		
	6 制作業務の講義、シミュレーション	24	学祭の反省会		
	7 シュミレーションを取り上げての予算案説明	25	「特殊効果」の種類と消防法		
	8 まとめ①	26	「特殊効果」の実践		
	9 スケジュールの作成方法	27	クリスマスイベント 全セクション合同打ち合わせ		
	10 舞台で使用する道具や、寸法の説明	28	クリスマスイベント 最終技術打ち合わせ		
	11 図面の見方及び、作成方法	29	クリスマスイベント 反省会		
	12 グループに分かれて「バミリ」の実践	30	演出で求められる「キッカケ」		
	13 イントレ&平台等、基礎舞台作成方法	31	コンサート映像を見ての進行表の作り方		
	14 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	32	2年生の卒業制作のための技術予習		
	15 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	33	1年間を通してのまとめ及びプロ意識の講義		
	16 まとめ②	34	まとめ		
	17 スタッフとしての方向性議論	35	まとめ		
	18 「譜割り」の作成方法	36	まとめ		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%				
講師プロフィール	長年舞台監督として従事し、ホール・アーナソアーや各種イベントなど様々な現場で活躍している				

シラバス

科目名	舞台技術		担当者名	渡邊 政美				
学科	コンサート・イベント科 ステージ制作コース		授業方法	講義				
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選		授業時間数 72時間			
授業目的	仕事として、現場に出た際困らないように基本的な知識をなるべく多く学生に伝えていく							
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	仕事として現場に出る際、舞台技術で学んだ知識はすぐに役立つと考える。専門用語や特殊な場所の名前等ある中で戸惑いを少しでもなくし、実践につなげられる人材になるよう、様々な知識、経験上の話などを伝えていく。							
授業概要	舞台(イベント)に関わる仕事をするにあたり、大切で最も基本的な「挨拶をきちんとする」をはじめ、舞台用語、場所・機構の名前、それぞれの役割を理解する。舞台の世界では未だ使われている「尺貫法」を理解する。							
授業 計 画 表	授業内容		授業内容					
	1 オリエンテーション	19	試験					
	2 オリエンテーション	20	試験の講評					
	3 オリエンテーション	21	舞台用語(シーリング、フロントなど)					
	4 講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授業に関して	22	ホール管理について					
	5 舞台用語、場所の名前、それぞれの役割、各注意点をプロ音響データーブックを参考にし、PowerPointを使い伝える	23	山台の組み方(復習、基礎編1)					
	6 同上(中割幕、大黒幕など)	24	山台の組み方(基礎編2)					
	7 同上(暗転幕、バトンなど)	25	山台の組み方(基礎編3)					
	8 同上(舞台用語に関して)	26	山台の組み方(応用編 迫)					
	9 同上(アッパー・ホリゾントライトなど、平面図に関して)	27	山台の組み方(応用編 2枚重ね)					
	10 同上(綱元、操作盤など)	28	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)					
	11 同上(迫、すのこなど)	29	山台の組み方(応用編 変形2)					
	12 同上(反響板、オーケストラピットなど)	30	舞台の禁止行為に関して					
	13 同上(所作台、本花道など)	31	試験対策					
	14 同上(山台)、尺貫法、平台、箱馬に関して	32	試験					
	15 高さのない山台の組み方	33	試験の講評					
	16 高さのない山台の組み方	34	まとめ					
	17 舞台用語(定式幕、高座台など)	35	まとめ					
	18 試験対策	36	まとめ					
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付				
	学習態度・出席率	50%						
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点 以下は不合格				
	合計	100%						
P/R/A/G割合	P«課題解決型学習»50% R«実働実践型学習»20% A«主体的参加型学習»20% G«海外体感型学習»10%							
講師プロフィール	東京工学院音響芸術科卒業の後、株式会社岡田舞台にて、ホール管理及び技術者として勤続28年に至る。勤務した会館は5館目となり、ホールチーフとして10年以上の経験を持つ。							

シラバス

科目名	音響技術Ⅰ	担当者名	櫛田 博		
学科	コンサート・イベント科 ステージ制作コース	授業方法	講義		
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 72時間	
授業目的	技術的な基礎知識を身につける。／論理的な思考力を身につける。				
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	ハードウェア: アナログ電気音響の基礎から、音響機材の種類と使用目的を理解する。□ ソフトウェア: 現場においてのスタッフとしての責任や、音響マンとしての役割を理解する。				
授業概要	前半は、音響の仕事の内容や職種・ポジションなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎を学ぶ。□ 後半は、マイクロфонからスピーカーまでの各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ また、音の性質や楽器の発音の仕組みを説明する。				
授業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1 オリエンテーション	19	前期末試験の解説		
	2 オリエンテーション	20	周辺機器 ①(イコライザー／空間系エフェクター)		
	3 オリエンテーション	21	周辺機器 ②(ダイナミックス系エフェクター／録再機器)		
	4 PAの世界	22	アウトプット ①(ユニット／ホーン／エンクロージャ)		
	5 音響に必要な算数・数学	23	アウトプット ②(プロセッサー／パワーアンプ)		
	6 舞台・音響の略号と仕込図	24	アウトプット ③(指向性／スピーカシステム)		
	7 電気の基礎(電圧／電流／電力)	25	ルームアコースティック(音の吸収・反射・透過／残響)		
	8 電子の基礎 ①(抵抗／コンデンサ／コイル)	26	音の発音とマイキング		
	9 電子の基礎 ②(dB／インピーダンス)	27	音響備品／ケーブル／工具		
	10 電子の基礎 ③(アナログオーディオ伝送)	28	デジタルの基礎 ①(デジタルオーディオ)		
	11 音の性質	29	デジタルの基礎 ②(PCM音源と圧縮音源)		
	12 聴覚・音響心理効果	30	音響の仕事の進め方		
	13 音響システムの概要	31	後期まとめ		
	14 インプット ①(マイクロфон)	32	リクエスト講義		
	15 インプット ②(ピックアップ／DI)	33	学年末試験の解説		
	16 ミキサー ①(インプットモジュール)	34	まとめ		
	17 ミキサー ②(アウトプットモジュール)	35	まとめ		
	18 前期まとめ	36	まとめ		
成績割合	テスト	90%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%				
講師プロフィール	音響技術者として30年以上のキャリアを持ち、現在も音楽ツアーや各種イベントにてPAオペレーターとして活躍する。				

シラバス

科目名	ステージ・テクニック	担当者名	長谷川 浩司、村野 浩一、中井川 孝之、月岡 靖智、岩元 真樹		
学科	コンサート・イベント科 ステージ制作コース	授業方法	講義		
認定単位 開講学年	3単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 54時間	
授業目的	イベント業界で働く上での業務の理解、スケジュール・予算管理などの重要性を学び社会人としての成長を目的とする				
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	イベントで使用する各種資料、アイテムなどの理解を深め、実習、実技などで具体的に授業目標を定める				
授業概要	現場で必要なスキルを舞台監督・制作・運営・大道具・楽器・特殊効果と分けて深く座学や実技において説明を行っていく				
授業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1 オリエンテーション	19	「譜割り」の作成		
	2 オリエンテーション	20	実際の楽器を使ってのローディー実践①		
	3 オリエンテーション	21	実際の楽器を使ってのローディー実践②		
	4 ジャンル別に求められるスタッフの違い	22	シーケンスを使った同期演奏の実践		
	5 イベントに関わる全セクションの業務内容	23	学祭に向けての現場テクニックの復習		
	6 制作業務の講義、シミュレーション	24	学祭の反省会		
	7 シュミレーションを取り上げての予算案説明	25	「特殊効果」の種類と消防法		
	8 まとめ①	26	「特殊効果」の実践		
	9 スケジュールの作成方法	27	クリスマスイベント 全セクション合同打ち合わせ		
	10 舞台で使用する道具や、寸法の説明	28	クリスマスイベント 最終技術打ち合わせ		
	11 図面の見方及び、作成方法	29	クリスマスイベント 反省会		
	12 グループに分かれて「バミリ」の実践	30	演出で求められる「キッカケ」		
	13 イントレ&平台等、基礎舞台作成方法	31	コンサート映像を見ての進行表の作り方		
	14 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	32	2年生の卒業制作のための技術予習		
	15 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	33	1年間を通してのまとめ及びプロ意識の講義		
	16 まとめ②	34	まとめ		
	17 スタッフとしての方向性議論	35	まとめ		
	18 「譜割り」の作成方法	36	まとめ		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%				
講師プロフィール	長年舞台監督として従事し、ホール・アーナソアーや各種イベントなど様々な現場で活躍している				

シラバス

科目名	舞台技術	担当者名	渡邊 政美	
学科	コンサート・イベント科 ステージ音響コース	授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	授業時間数 72時間	
授業目的	仕事として、現場に出た際困らないように基本的な知識をなるべく多く学生に伝えていく			
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	仕事として現場に出る際、舞台技術で学んだ知識はすぐに役立つと考える。専門用語や特殊な場所の名前等ある中で戸惑いを少しでもなくし、実践につなげられる人材になるよう、様々な知識、経験上の話などを伝えていく。			
授業概要	舞台(イベント)に関わる仕事をするにあたり、大切で最も基本的な「挨拶をきちんとする」をはじめ、舞台用語、場所・機構の名前、それぞれの役割を理解する。舞台の世界では未だ使われている「尺貫法」を理解する。			
授業 計 画 表	授業内容	授業内容		
	1 オリエンテーション①	19	ホール管理について	
	2 オリエンテーション②	20	試験対策	
	3 オリエンテーション③	21	試験の講評	
	4 講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授業に関して	22	舞台用語(シーリング、フロントなど)	
	5 舞台用語、場所の名前、それぞれの役割、各注意点を プロ音響データブックを参考にし、powerpointを使い伝 える	23	ホール管理について	
	6 同上(中割幕、大黒幕など)	24	山台の組み方(復習、基礎編1)	
	7 同上(舞台用語に関して)	25	山台の組み方(基礎編2)	
	8 同上(暗転幕、バトンなど)	26	山台の組み方(基本編3)	
	9 同上(アッパー・ホリゾントライなどと、平面図に関して)	27	山台の組み方(応用編 迫)	
	10 同上(綱元、操作盤など)	28	山台の組み方(応用編 2枚重ね)	
	11 同上(迫、すのこなど)	29	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)	
	12 同上(反響板、オーケストラピットなど)	30	山台の組み方(応用編 変形2)	
	13 同上(所作台、本花道など)	31	舞台での禁止行為に関して	
	14 同上(山台)、尺貫法、平台、箱馬に関して	32	試験対策	
	15 高さのない山台の組み方	33	試験	
	16 高さのない山台の組み方	34	試験の講評	
	17 舞台用語(常識幕、高座台など)	35	まとめ①	
	18 試験	36	まとめ②	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付
	学習態度・出席率	50%		
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格
	合計	100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%			
講師プロフィール	東京工学院音響芸術科卒業の後、株式会社岡田舞台にて、ホール管理及び技術者として勤続28年に至る。勤務した会館は5館目となり、ホールチーフとして10年以上の経験を持つ。			

シラバス

科目名	音響技術 I	担当者名	櫛田 博			
学科	コンサート・イベント科 ステージ音響コース	授業方法	講義			
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 72時間		
授業目的	技術的な基礎知識を身につける。／論理的な思考力を身につける。					
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	ハードウェア: アナログ電気音響の基礎から、音響機材の種類と使用目的を理解する。□ ソフトウェア: 現場においてのスタッフとしての責任や、音響マンとしての役割を理解する。					
授業概要	前半は、音響の仕事の内容や職種・ポジションなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎を学ぶ。□ 後半は、マイクロфонからスピーカーまでの各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ また、音の性質や楽器の発音の仕組みを説明する。					
授業 計 画 表	授業内容		授業内容			
	1 PAの世界	19	前期試験解答と解説			
	2 音響に必要な算数・数学 (四則演算の順序／分数／閏数／対数)	20	インプット① (マイクの分類／動作原理／指向性)			
	3 舞台・音響の略号と仕込図 (音響機材の略号／略名／楽器の略名)	21	インプット② (D.I.／ピックアップ／マイケーブル／マルチケーブル)			
	4 電気の基礎 (電圧／電流／電力)	22	アナログミキサー① (インプットモジュール)			
	5 電子の基礎① (抵抗／コンデンサ／コイル)	23	アナログミキサー② (バス／アウトプットモジュール／マトリックス)			
	6 電子の基礎② (dB／インピーダンス)	24	周辺機器① (イコライザー／空間系エフェクター)			
	7 電子の基礎③ (增幅／フィルター／平衡伝送)	25	周辺機器② (ダイナミックス系エフェクター／再生機器)			
	8 音とは (振動／疎密波／音波／音／音の三要素)	26	アウトプット① (DSPプロセッサー／パワーアンプ／ユニット動作原理)			
	9 音の性質 (進行波／定在波／干渉／屈折)	27	アウトプット② (スピーカー構成と取り扱い)			
	10 聞こえる仕組み (物理現象→生理現象→心理現象)	28	デジタルの基礎① (PCM変換／DSD変換／ADC・DAC)			
	11 音の心理学 (音の大小と対数／音圧／等ラウドネス)	29	デジタルの基礎② (パケット／圧縮／MIDI)			
	12 音の心理効果 (耳が二つ／ステレオフォニック～イマーシブ)	30	PAプラン (情報と資料)			
	13 音が出る仕組み (発音体の構造)	31	リクエスト講義 (予備:資格と検定)			
	14 音楽とは (音と音楽の違い)	32	後期まとめ			
	15 OB・OGディスカッション	33	後期末試験			
	16 リクエスト講義 (予備:ケーブルの知識)	34	後期末試験解答と解説			
	17 前期まとめ	35	リクエスト講義 (ケーブルの知識)			
	18 前期末試験	36	リクエスト講義 (工具・測定器)			
成績割合	テスト	90%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
	学習態度・出席率	10%				
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%					
講師プロフィール	音響技術者として30年以上のキャリアを持ち、現在も音楽ツアーや各種イベントにてPAオペレーターとして活躍する。近年ではコロナ禍の対応として、音楽配信やヴァーチャル配信の音声も担当。					

シラバス

科目名	ステージ・テクニック	担当者名	長谷川 浩司、村野 浩一、中井川 孝之 月岡 靖智、岩元 真樹			
学科	コンサート・イベント科 ステージ音響コース	授業方法	講義			
認定単位 開講学年	3単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 54時間		
授業目的	イベント業界で働く上での業務の理解、スケジュール・予算管理などの重要性を学び社会人としての成長を目的とする					
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	イベントで使用する各種資料、アイテムなどの理解を深め、実習、実技などで具体的に授業目標を定める					
授業概要	現場で必要なスキルを舞台監督・制作・運営・大道具・楽器・特殊効果と分けて深く座学や実技において説明を行っていく					
授業 計 画 表	授業内容		授業内容			
	1 オリエンテーション①	19	「譜割り」の作成			
	2 オリエンテーション②	20	実際の楽器を使ってのローディー実践①			
	3 オリエンテーション③	21	実際の楽器を使ってのローディー実践②			
	4 ジャンル別に求められるスタッフの違い	22	シーケンスを使った同期演奏の実践			
	5 イベントに関わる全セクションの業務内容	23	学祭に向けての現場テクニックの復習			
	6 制作業務の講義、シミュレーション	24	学祭の反省会			
	7 シュミレーションを取り上げての予算案説明	25	「特殊効果」の種類と消防法			
	8 まとめ①	26	「特殊効果」の実践			
	9 スケジュールの作成方法	27	クリスマスイベント 全セクション合同打ち合わせ			
	10 舞台で使用する道具や、寸法の説明	28	クリスマスイベント 最終技術打ち合わせ			
	11 図面の見方及び、作成方法	29	クリスマスイベント 反省会			
	12 グループに分かれて「バミリ」の実践	30	演出で求められる「キッカケ」			
	13 イントレ＆平台等、基礎舞台作成方法	31	コンサート映像を見ての進行表の作り方			
	14 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	32	2年生の卒業制作のための技術予習			
	15 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	33	1年間を通してのまとめ及びプロ意識の講義			
	16 まとめ②	34	まとめ①			
	17 スタッフとしての方向性議論	35	まとめ②			
	18 「譜割り」の作成方法	36	まとめ③			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
	学習態度・出席率	30%				
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%					
講師プロフィール	長年舞台監督として従事し、ホール・アリーナソーアーや各種イベントなど様々な現場で活躍している					

シラバス

科目名	舞台技術	担当者名	渡邊 政美	
学科	コンサート・イベント科 ステージ照明コース	授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	授業時間数 72時間	
授業目的	仕事として、現場に出た際困らないように基本的な知識をなるべく多く学生に伝えていく			
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	仕事として現場に出る際、舞台技術で学んだ知識はすぐに役立つと考える。専門用語や特殊な場所の名前等ある中で戸惑いを少しでもなくし、実践につなげられる人材になるよう、様々な知識、経験上の話などを伝えていく。			
授業概要	舞台(イベント)に関わる仕事をするにあたり、大切で最も基本的な「挨拶をきちんとする」をはじめ、舞台用語、場所・機構の名前、それぞれの役割を理解する。舞台の世界では未だ使われている「尺貫法」を理解する。			
授業 計 画 表	授業内容	授業内容		
	1 オリエンテーション①	19	ホール管理について	
	2 オリエンテーション②	20	試験対策	
	3 オリエンテーション③	21	試験の講評	
	4 講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授業に関して	22	舞台用語(シーリング、フロントなど)	
	5 舞台用語、場所の名前、それぞれの役割、各注意点を プロ音響データブックを参考にし、powerpointを使い伝 える	23	ホール管理について	
	6 同上(中割幕、大黒幕など)	24	山台の組み方(復習、基礎編1)	
	7 同上(舞台用語に関して)	25	山台の組み方(基礎編2)	
	8 同上(暗転幕、バトンなど)	26	山台の組み方(基本編3)	
	9 同上(アッパー・ホリゾントライなどと、平面図に関して)	27	山台の組み方(応用編 迫)	
	10 同上(綱元、操作盤など)	28	山台の組み方(応用編 2枚重ね)	
	11 同上(迫、すのこなど)	29	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)	
	12 同上(反響板、オーケストラピットなど)	30	山台の組み方(応用編 変形2)	
	13 同上(所作台、本花道など)	31	舞台での禁止行為に関して	
	14 同上(山台)、尺貫法、平台、箱馬に関して	32	試験対策	
	15 高さのない山台の組み方	33	試験	
	16 高さのない山台の組み方	34	試験の講評	
	17 舞台用語(常識幕、高座台など)	35	まとめ①	
	18 試験	36	まとめ②	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付
	学習態度・出席率	50%		
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格
	合計	100%		
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%			
講師プロフィール	東京工学院音響芸術科卒業の後、株式会社岡田舞台にて、ホール管理及び技術者として勤続28年に至る。勤務した会館は5館目となり、ホールチーフとして10年以上の経験を持つ。			

シラバス

科目名	音響技術 I	担当者名	櫛田 博	
学科	コンサート・イベント科 ステージ照明コース	授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	授業時間数 72時間	
授業目的	技術的な基礎知識を身につける。／論理的な思考力を身につける。			
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	ハードウェア: アナログ電気音響の基礎から、音響機材の種類と使用目的を理解する。□ ソフトウェア: 現場においてのスタッフとしての責任や、音響マンとしての役割を理解する。			
授業概要	前半は、音響の仕事の内容や職種・ポジションなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎を学ぶ。□ 後半は、マイクロфонからスピーカーまでの各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ また、音の性質や楽器の発音の仕組みを説明する。			
授業 計 画 表	授業内容		授業内容	
	1 PAの世界	19	アウトプット①(ユニット/ホーン/エンクロージャ)	
	2 音響に必要な算数・数学	20	アウトプット②(プロセッサー/パワーアンプ)	
	3 舞台・音響の略号と仕込図	21	アウトプット③(指向性/スピーカーシステム)	
	4 電気の基礎(電圧/電流/電力)	22	ルームアコースティック(音の吸収・反射・透過/残響)	
	5 電子の基礎①(抵抗/コンデンサ/コイル)	23	音の発音とマイキング	
	6 電子の基礎②(dB/インピーダンス)	24	音響機材/ケーブル/工具	
	7 電子の基礎③(アナログオーディオ伝送)	25	デジタルの基礎①(デジタルオーディオ)	
	8 音の性質	26	デジタルの基礎②(PCM音源と圧縮音源)	
	9 聴覚・音響心理効果	27	音響の仕事の進め方	
	10 音響システムの概要	28	後期まとめ	
	11 インプット①(マイクロфон)	29	リクエスト講義	
	12 インプット②(ピックアップ/DI)	30	学年末試験の解説	
	13 ミキサー①(インプットモジュール)	31	振り返り1	
	14 ミキサー②(アウトプットモジュール)	32	振り返り2	
	15 前期まとめ	33	振り返り3	
	16 前期末試験の解説	34	総評1	
	17 周辺機器①(イコライザー/空間系エフェクター)	35	総評2	
	18 周辺機器②(ダイナミックス系エフェクター/録再機器)	36	総評3	
成績割合	テスト	90%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付
	学習態度・出席率	10%		
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格
	合計	100%		
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%			
講師プロフィール	音響技術者として30年以上のキャリアを持ち、現在も音楽ツアーや各種イベントにてPAオペレーターとして活躍する。			

シラバス

科目名	ステージ・テクニック		担当者名	長谷川 浩司、村野 浩一、中井川 孝之 月岡 靖智、岩元 真樹				
学科	コンサート・イベント科 ステージ照明コース		授業方法	講義				
認定単位 開講学年	3単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	54時間			
授業目的	イベント業界で働く上での業務の理解、スケジュール・予算管理などの重要性を学び社会人としての成長を目的とする							
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	イベントで使用する各種資料、アイテムなどの理解を深め、実習、実技などで具体的に授業目標を定める							
授業概要	現場で必要なスキルを舞台監督・制作・運営・大道具・楽器・特殊効果と分けて深く座学や実技において説明を行っていく							
授業 計 画 表	授業内容		授業内容					
	1 オリエンテーション①	19	「譜割り」の作成					
	2 オリエンテーション②	20	実際の楽器を使ってのローディー実践①					
	3 オリエンテーション③	21	実際の楽器を使ってのローディー実践②					
	4 ジャンル別に求められるスタッフの違い	22	シーケンスを使った同期演奏の実践					
	5 イベントに関わる全セクションの業務内容	23	学祭に向けての現場テクニックの復習					
	6 制作業務の講義、シミュレーション	24	学祭の反省会					
	7 シュミレーションを取り上げての予算案説明	25	「特殊効果」の種類と消防法					
	8 まとめ①	26	「特殊効果」の実践					
	9 スケジュールの作成方法	27	クリスマスイベント 全セクション合同打ち合わせ					
	10 舞台で使用する道具や、寸法の説明	28	クリスマスイベント 最終技術打ち合わせ					
	11 図面の見方及び、作成方法	29	クリスマスイベント 反省会					
	12 グループに分かれて「バミリ」の実践	30	演出で求められる「キッカケ」					
	13 イントレ＆平台等、基礎舞台作成方法	31	コンサート映像を見ての進行表の作り方					
	14 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	32	2年生の卒業制作のための技術予習					
	15 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	33	1年間を通してのまとめ及びプロ意識の講義					
	16 まとめ②	34	まとめ①					
	17 スタッフとしての方向性議論	35	まとめ②					
	18 「譜割り」の作成方法	36	まとめ③					
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付				
	学習態度・出席率	30%						
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格				
	合計	100%						
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%							
講師プロフィール	長年舞台監督として従事し、ホール・アリーナソーアーや各種イベントなど様々な現場で活躍している							

シラバス

科目名	ステージ・テクニック	担当者名	長谷川 浩司、村野 浩一、中井川 孝之、月岡 靖智、岩元 真樹		
学科	コンサート・イベント科 イベントビジネス・大学コース	授業方法	講義		
認定単位 開講学年	3単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 54時間	
授業目的	イベント業界で働く上での業務の理解、スケジュール・予算管理などの重要性を学び社会人としての成長を目的とする				
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	イベントで使用する各種資料、アイテムなどの理解を深め、実習、実技などで具体的に授業目標を定める				
授業概要	現場で必要なスキルを舞台監督・制作・運営・大道具・楽器・特殊効果と分けて深く座学や実技において説明を行っていく				
授業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1 オリエンテーション	19	「譜割り」の作成		
	2 オリエンテーション	20	実際の楽器を使ってのローディー実践①		
	3 オリエンテーション	21	実際の楽器を使ってのローディー実践②		
	4 ジャンル別に求められるスタッフの違い	22	シーケンスを使った同期演奏の実践		
	5 イベントに関わる全セクションの業務内容	23	学祭に向けての現場テクニックの復習		
	6 制作業務の講義、シミュレーション	24	学祭の反省会		
	7 シュミレーションを取り上げての予算案説明	25	「特殊効果」の種類と消防法		
	8 まとめ①	26	「特殊効果」の実践		
	9 スケジュールの作成方法	27	クリスマスイベント 全セクション合同打ち合わせ		
	10 舞台で使用する道具や、寸法の説明	28	クリスマスイベント 最終技術打ち合わせ		
	11 図面の見方及び、作成方法	29	クリスマスイベント 反省会		
	12 グループに分かれて「バミリ」の実践	30	演出で求められる「キッカケ」		
	13 イントレ&平台等、基礎舞台作成方法	31	コンサート映像を見ての進行表の作り方		
	14 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	32	2年生の卒業制作のための技術予習		
	15 「夏のイベント」へ向けての基礎舞台作成	33	1年間を通してのまとめ及びプロ意識の講義		
	16 まとめ②	34	まとめ		
	17 スタッフとしての方向性議論	35	まとめ		
	18 「譜割り」の作成方法	36	まとめ		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%				
講師プロフィール	長年舞台監督として従事し、ホール・アリーナツアーや各種イベントなど様々な現場で活躍している				

シラバス

科目名	音響技術Ⅰ	担当者名	櫛田 博		
学科	コンサート・イベント科 イベントビジネス・大学コース	授業方法	講義		
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 72時間	
授業目的	技術的な基礎知識を身につける。／論理的な思考力を身につける。				
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	ハードウェア: アナログ電気音響の基礎から、音響機材の種類と使用目的を理解する。□ ソフトウェア: 現場においてのスタッフとしての責任や、音響マンとしての役割を理解する。				
授業概要	前半は、音響の仕事の内容や職種・ポジションなどのソフト的な説明から、電気・電子の基礎を学ぶ。□ 後半は、マイクロфонからスピーカーまでの各機材の種類や機能・使用目的を理解する。□ また、音の性質や楽器の発音の仕組みを説明する。				
授業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1 オリエンテーション	19	前期末試験の解説		
	2 オリエンテーション	20	周辺機器 ①(イコライザー／空間系エフェクター)		
	3 オリエンテーション	21	周辺機器 ②(ダイナミックス系エフェクター／録再機器)		
	4 PAの世界	22	アウトプット ①(ユニット／ホーン／エンクロージャ)		
	5 音響に必要な算数・数学	23	アウトプット ②(プロセッサー／パワーアンプ)		
	6 舞台・音響の略号と仕込図	24	アウトプット ③(指向性／スピーカシステム)		
	7 電気の基礎(電圧／電流／電力)	25	ルームアコースティック(音の吸収・反射・透過／残響)		
	8 電子の基礎 ①(抵抗／コンデンサ／コイル)	26	音の発音とマイキング		
	9 電子の基礎 ②(dB／インピーダンス)	27	音響備品／ケーブル／工具		
	10 電子の基礎 ③(アナログオーディオ伝送)	28	デジタルの基礎 ①(デジタルオーディオ)		
	11 音の性質	29	デジタルの基礎 ②(PCM音源と圧縮音源)		
	12 聴覚・音響心理効果	30	音響の仕事の進め方		
	13 音響システムの概要	31	後期まとめ		
	14 インプット ①(マイクロфон)	32	リクエスト講義		
	15 インプット ②(ピックアップ／DI)	33	学年末試験の解説		
	16 ミキサー ①(インプットモジュール)	34	まとめ		
	17 ミキサー ②(アウトプットモジュール)	35	まとめ		
	18 前期まとめ	36	まとめ		
成績割合	テスト	90%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	10%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》30% R《実働実践型学習》30% A《主体的参加型学習》30% G《海外体感型学習》10%				
講師プロフィール	音響技術者として30年以上のキャリアを持ち、現在も音楽ツアーや各種イベントにてPAオペレーターとして活躍する。				

シラバス

科目名	舞台技術	担当者名	渡邊 政美		
学科	コンサート・イベント科 イベントビジネス・大学コース	授業方法	講義		
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数 72時間	
授業目的	仕事として、現場に出た際困らないように基本的な知識をなるべく多く学生に伝えていく				
授業目標 (ラーニングアウトカムズ)	仕事として現場に出る際、舞台技術で学んだ知識はすぐに役立つと考える。専門用語や特殊な場所の名前等ある中で戸惑いを少しでもなくし、実践につなげられる人材になるよう、様々な知識、経験上の話などを伝えていく。				
授業概要	舞台(イベント)に関わる仕事をするにあたり、大切で最も基本的な「挨拶をきちんとする」をはじめ、舞台用語、場所・機構の名前、それぞれの役割を理解する。舞台の世界では未だ使われている「尺貫法」を理解する。				
授業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1 オリエンテーション	19	試験		
	2 オリエンテーション	20	試験の講評		
	3 オリエンテーション	21	舞台用語(シーリング、フロントなど)		
	4 講師と学生の自己紹介、及び今後の舞台技術の授業に関して	22	ホール管理について		
	5 <small>舞台用語、場所の名前、てれいでのいの反古り、各注意点をプロ音響データーブックを参考に</small> <small>PowerPointを用いて行なう</small>	23	山台の組み方(復習、基礎編1)		
	6 同上(中割幕、大黒幕など)	24	山台の組み方(基礎編2)		
	7 同上(暗転幕、バトンなど)	25	山台の組み方(基礎編3)		
	8 同上(舞台用語に関して)	26	山台の組み方(応用編 迫)		
	9 同上(アッパー・ホリゾントライトなどと、平面図に関して)	27	山台の組み方(応用編 2枚重ね)		
	10 同上(綱元、操作盤など)	28	山台の組み方(応用編 縦敷き、変形1)		
	11 同上(迫、すのこなど)	29	山台の組み方(応用編 変形2)		
	12 同上(反響板、オーケストラピットなど)	30	舞台の禁止行為に関して		
	13 同上(所作台、本花道など)	31	試験対策		
	14 同上(山台)、尺貫法、平台、箱馬に関して	32	試験		
	15 高さのない山台の組み方	33	試験の講評		
	16 高さのない山台の組み方	34	まとめ		
	17 舞台用語(定式幕、高座台など)	35	まとめ		
	18 試験対策	36	まとめ		
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>50% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>20% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	東京工学院音響藝術科卒業の後、株式会社岡田舞台にて、ホール管理及び技術者として勤続28年に至る。勤務した会館は5館目となり、ホールチーフとして10年以上の経験を持つ。				